

講義名	オ)言語と社会(24)			
担当教員	氏木 孝仁 / 市成 直子			
開講期・曜日・時限	前期 水曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要

本コースでは本学独自のCan-do リストに基づき、英語と中国語の基本的な定型表現を身に付けることによって、異文化と多様性を理解する態度・姿勢を育成します。全15回の授業を前半7回、後半8回に分けて、英語と中国語の二言語を学習します。なお、クラスによって、英語・中国語あるいは中国語・英語と授業進行が異なります。英語・中国語のクラスは後半の中国語が8回、中国語・英語のクラスは後半の英語が8回となります。このコースでは新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、オンデマンド型の授業を実施します。

到達目標

英語と中国語の二言語双方の基本的な特徴と構造を理解し、短期間、海外に滞在することを想定しながら、ホテル・食事・買い物などの実際の場面で初歩の会話ができるようになることを目指します。

提出課題

適宜指示します。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

講義資料の中で解説をします。

評価の基準

詳細については各担当者(オンデマンド型授業)が第1回目の講義で説明します。

履修にあたっての注意・助言他

コロナウイルス感染拡大防止の観点から、このクラスではオンデマンド型の授業を実施します。テキストは必ず購入してください。テキストを購入しないことによって起きる学習上の不都合はすべて自己責任となります。出欠の確認方法やその他、履修に関わる詳細は各担当者がRyuka Portalの「講義連絡」に掲載をするか、第1回目の授業で説明しますので、必ず確認してください。

教科書	.言語と社会.				

プリント資料及び参考文献

テキストの内容に準拠して講師が作成したワークシート等、適宜、Ryuka Portalの「講義連絡」に提示する。

授業計画

回 授業計画
1.英語Unit 1: Introducing yourself
2.英語Unit 2: Talking about interests and hobbies
3.英語Unit 3: Airport and Immigration
4.英語Unit 4: Hotel
5.英語Unit 5: Fast food restaurant
6.英語Unit 6: Shopping
7.英語Unit 7: Directions
8.中国語 第1課「中国のひと・くに・ことば」: 簡体字・ピンイン/あいさつ表現/発音(声調)
9.中国語 第2課「中国語のしくみを知る」: SVO構造と否定文/発音(母音)
10.中国語 第3課「自己紹介」: 疑問文/発音(子音1)
11.中国語 第4課「あれは何ですか?」: 指示詞/疑問詞疑問文/発音(子音2)
12.中国語 第5課「きょうたいはいはいですか?」: ある・ない/数字を使った表現(日にち、年号)/発音(複母音)
13.中国語 第6課「どこへ行くのですか?」: 所在表現/数字を使った表現(時刻)/発音(鼻母音)
14.中国語 総復習: ややボリューム(英語のある文を読む/自己紹介文を作る)
15.英語/中国語: まとめUnit

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

(英・中共通)
予習として、次の授業で学ぶユニット(課)に目を通しておきましょう。授業内容を知り、自分の分かるところから分からないところを事前に把握しておけば、次の授業にスムーズに入っていけますし、授業の理解度が格段にアップします。
(英語)授業前に、各ユニットの重要単語の意味を調べて来てください。(2時間)
授業後は、各ユニットの小テストが毎回あるので、復習を行ってください。(2時間)
(中国語)中国語は、大半の人にとって初級の言語ですから、学ぶことすべてが新しく、最初は覚えることがたくさんあります。中国語は予習はそこそこ、復習はしっかり重点的に行ってください。とくに単語はその都度しっかり頭に入れていく必要があります。毎回単語帳(ワークシート)を別途配布します(これについては中国語担当者から連絡があります)。単語帳や授業中にできなかったドリルは宿題とします。(予習: 1時間半~2時間、復習: 2時間~2時間半)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、商学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成果の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

各担当者から連絡があります。オンデマンド型授業という性格上、講師と受講生、あるいは、クラスメート同士の生のコミュニケーションはできませんが、例えば、英語の場合、音声付きの授業資料の中で講師と会話練習を実施するクラスもあります。

実務経験の有無及び活用

備考

オンデマンド型の授業のため、課題の提出は非常に重要です。各担当者により、授業方法が異なりますので、受講する授業の「講義連絡」を必ず確認してください。